唱歌の選擇

堀　七　藏

一

前々號に於て現今幼稚園に於て多く選擇せられてゐる唱歌の歌詞に現はれたる觀念調査の大要を說明したのであります。是等の歌詞には幼稚園の園兒にとつて不相當に難解のものが少くないから吾人は幼稚園唱歌として作歌者に對し、今一層幼兒の生活內容を基調となし、幼兒の共鳴するが如き材料を採擇し、幼兒が容易に理解し得る作歌を希望せざるを得ないのであります。作歌者の興味本位ではなく、作歌者の力量を平易に表現して、幼稚なる者も容易に共鳴して作歌者の情緒に浸ることが出來ることを理想とせねばなりません。これと同時に幼稚園に於て選擇する唱歌は幼兒が理解し共鳴し、之によつて幼兒の感情意志を陶冶し得るものでなくてはなりません。徒らに難解な歌詞のものでは如何に高尙なる歌曲と雖も、幼兒教育の價値効果は甚だ貧弱なものであります。成るべく平易にして趣味ある歌詞の唱歌を選擇せねばなりません。如何に高尙な趣味に富む歌詞でも、幼兒に理解し得る程度のものでなくては

なりません。多くの場合、保姆や教師がすきであるからといふ條件で幼稚園唱歌が選擇せられるやうであるが、これは甚だ不適當な考であります。成程教授する教師が大に共鳴する歌詞ならば、たとへ幼兒にとつては難解でも相當に教育的効果を收め得るには相違ありません、教授者がいや〳〵ながら義務的に教授するやうでは、如何に幼兒の程度に合致してゐても教育的効果の少いことは單に唱歌に限つたことではありません。殊に唱歌に於ては情操を陶冶し、心情を快活純美ならしめることを目的となすものであるから、保姆教師が十分共鳴し、大にその趣味に合致した歌詞の唱歌でなくてはならぬこと勿論であります。しかしこれが唯一絶對の選擇要件ではないことを考へねばなりません。要は幼兒の教育材料としての唱歌、その唱歌の主要部をなす歌詞が幼兒に適するか否を不問に附するが如きことは甚だ誤れるものといはねばなりません。それで幼稚園唱歌は歌詞も樂譜も共に平易で、幼兒の興味に合し幼兒の程度に適し、幼兒の心情を快活にするやうなものでなくてはなりません。

一一

今日小學校に入學す　兒童につき既知の唱歌を調査すると、いはずとも幼稚園保育修了の者は最も多くの唱歌を知つて居り、それが何れも程度の高いものが多く、しかも必ずしも幼兒が相當に歌ひ得る程度ではないのであると申します。家庭から直接小學校に入學する者には、家庭に於て母親より唱歌を教

はるものは稀で、多くは兄姉等の唱歌を不知不識模倣するものであるから、これまた程度の高いものが多く、出來ばえもよくないのであります。しかしこの方は兒童が聞眞似のものが多いから、自然程度の高いものは模倣が困難であり、幼兒の興味にも合致しないが爲に、比較的に程度の高いものが少いといふ現象を呈してゐます。所が幼稚園では程度の高いもので、幼兒にはとてもこなせないものでも保姆より教へられるが爲に、却つて程度の高いものをまづく練習してゐるといふ有樣で、小學校に於ける唱歌教授上支障を來すことが多い。とは小學校唱歌教授の經驗者の言であります。確かに幼稚園に於て、小學校唱歌が程度などを無批判に教授せられることが多いやうであります。そのために惡い癖がつくといふが如きことがあれば、折角幼稚園で唱歌を教へたことが却つて骨折損となることも多いと思はれます。何も苦しんで幼稚園に於て、小學唱歌を教授せねば幼稚園教育が行はれない譯でもありません。また小學唱歌を教はるから幼稚園にお入れなさいと、廣告的な態度に出る必要もありません。幼稚園に於て小學唱歌を教授したからとて、小學校と幼稚園との密接な連絡をなすものでありません。却つて小學校と幼稚園との適切な連絡を破壞することになります。幼稚園に於ては幼兒に適當な、平易で幼兒の興味に合し、且づ優雅で心情を快活になすやうなものを教授し、以て一面には聽覺器官發聲器官等を練習して將來教育を受くるに足る十分な基礎を建設せねばなりません。

三

幼稚園に於て選擇すべき唱歌は歌詞がよく幼兒に理解し得られるものたるのみでなく、曲譜も幼兒の程度に相當せねばなりません。勿論曲譜は歌意とよく調和せねばならぬのでありますが、曲譜が幼兒の程度に合致しないやうでは幼稚園唱歌としては不適當であります。幼兒の音域は甚だ狹いものであり、幼兒の音程は甚だ不確實であるから大に練習せねばならぬものであります。それで幼稚園唱歌としての唱歌は高低の至つて容易で、簡單な音程であることが肝要であります。また長短やリズムは幼兒が調子づいて覺え易いものでなくてはならず、拍子も2/4拍子又また4/4拍子のものでなくてはなりません。それで大人が容易でも幼兒に六ケしいものが多いことを十分考量せねばなりません。世間には自分がすきであるからといふ條件を、唯一の標準となす人がありますがこれは禁物であります。